

この指と一まれ（第10回）

平成29年（2017年）12月15日

大中里保育園 園長 塩川恵美子

大中里保育園は30年度からこども園になる予定なのです・・・

社会福祉法人柿ノ木会もいよいよ30年度からこども園に移行する予定で今県に書類提出中。

そこで少しでもこども園と保育園の違いについて書いてみようと思います。

根本的な違いとしては保育園は厚生労働省 幼稚園は文部科学省が管轄になり運営しています。さて移行しようとしている認定こども園は？実は内閣府というところが管轄します。

管轄するところが違うと何が違ってくるのか？

うーん一言では言えない細かなことがたくさん有るので今回は割愛して・・・

大きな違いは**保護者が就労していなくても入園できる枠がある**ということです。

もう一つ大事なことは教育ということが入ってくるという事。3歳児から5歳児は同じクラスで同じ教育や保育が受けられるのです。これは大きな違いであり**こども園に移行したい大きな理由**でもあります。

でも0歳から2歳までの子どもの入所は今まで通り。ですがさらによりいい保育・教育をめざし**0歳から就学前までの一貫した教育及び保育を園児の発達の連続性を考慮して展開していくこと**などを念頭に置きながら日々を過ごします。

厚生労働省から内閣府へ管轄が変わると名称も当然変わります。これからは**大中里こども園**という名称のもと心新たによりいい保育・教育が始まるということで期待し又ご協力お願いします。

でもでも大事なことは今までの大中里保育園の保育=日常は変わらないということです。なぜかという**と大中里保育園は今までもきちんと教育と保育をやってきていたからです。**

ただ保育園のままでは教育していても教育していると言えないし認めて貰えないのですね。そこで大中里子ども園と名称を変え大地保育が大地教育としても世間にデビューするチャンスだと考えています。

私たちは数も文字も考える力も生活の中で丁寧に子ども達に伝えてきています。

デザートのプロウは子どもは3個自分で取ります。「えー大人はずるい！！だってたくさんじゃん。」

「えーたくさんって？何個だっけ？」「1 2 3・・・6」「やっぱりずるい」と。

「えーずるいかなあー。大人が多いのは何でだろうね？」「体が大きいからだよ」「早く食べられるからなんじゃない？」と色々考えて納得するのです。キウイのとれた数を数えます。お芋の重さを計ります。千なり瓜の重さを運びながら体感します。軽い重い 少ない多い 近い遠い たくさんって何個？



生活の中で数の体験が出来る場面を逃さぬように大人は楽しみながら保育に生かす努力をします。

絵本は毎日の生活には欠かせません。毎日3回は（朝の集まり 昼寝の前 お帰りの集まり）読むよう心掛けています。たくさん絵本を読んで貰って色々な言葉を覚えたり 繰り返しの面白い言葉が遊びを発展させたり 想像力が逞しくなり時にはお姫様になったり 虫になったり 劇遊びになったりなど随分影響を受けて楽しんでいるなと思います。

わらべうたはどの年齢でも大活躍し大人も子どもも1対1の素敵な時間を持ち その体験が信頼関係を築き その基礎が出来てきて幼児になるとわらべうたでの集団遊びが可能になります。ルールややり方が身に付くと子ども同士でもちゃんとリーダーができて上手に仕切っています。

仲良く遊んでいるなと思うと喧嘩も始まる。自分の言いたいことは負けずといい返し泣かれると もおーといいながら身を引く。なんて素敵な子ども達でしょう。言葉の応酬はもう大人顔負けです。言葉の数も使い方も生活の中で習得していき、もうすっかり一人前で聞いていておかしくもあり驚きもあり。小さい子が転ぶと「大丈夫？大丈夫？」と心配そうにそばにいてくれる年長さん。

そんな自慢の子ども達を育ててくれるのが大中里保育園の職員仲間です。一人一人が妥協せず子ども達の育ちのためにミーティングをしながら時には涙し時には折れる心を奮い立たせ今日も頑張る職員に頭が下がる思いです。さらに愛情深く 丁寧を心がけ 体験を通して大人も子どもも一緒に学び 成長できるよう 保護者の皆様とともに子ども達の幸せを考えながら毎日を過ごしていきます。

そして今まで私たちが積み重ねてきた事を基礎にし次のステージ 認定こども園 を目指します。

